



ゆすはら町議会だより

四万十源流

平成30年10月20日

第105号

題字 議長 土金 清



9月 定例会

議会9月定例会は、9月10日から14日の5日間の会期で開催した。

議案審議では、町道認定、平成29年度各会計歳入歳出決算の認定、平成30年度一般会計補正予算、工事請負契約、梶原町総合福祉センターの設置及び管理に関する条例の廃止、梶原町高齢者合宿施設の設置及び管理に関する条例の一部改正など16件の議案について本会議で審議を行い、すべての議案について原案どおり可決した。

また、健全化判断比率、資金不足比率について報告があった。

表紙写真の紹介



梶原高校体育祭の様子

行政報告



行政報告する吉田尚人町長

町長は、平成30年6月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

総務課関係

- ・梶原町選挙管理委員会定時登録について
- ・7月豪雨について
- ・台風12号、21号について

企画財政課関係

- ・集落活動センターについて
- ・集落活動センター「ゆすはら東」拠点整備完了
- ・大学インターンシップ

保健福祉支援センター関係

- ・等の受け入れ
- ・集落活動センター連絡協議会の取り組みについて
- ・移住定住PR事業について
- ・移住者の状況について
- ・ゆすはら未来大使について
- ・久万高原町との交流について

環境整備課関係

- ・第1回廃棄物減量等推

教育委員会関係

- ・雲の上の図書館での負傷事故について
- ・全国ジュニアソフトボール大会優勝について
- ・梶原高等学校寮整備要望について

産業振興課関係

- ・進員連絡協議会について
- ・町道佐渡鷹取線佐渡鷹取トンネル工事安全祈願祭、着工祝賀会について
- ・7月豪雨について
- ・地域バイオマスサミットへの参加について
- ・矢崎国内サマーキャンプについて
- ・ゆすはら産業担い手育成塾について
- ・農家回りについて

〈目次〉

行政報告 2

9月定例会での決定 3～5

決算連合審査 6～9

一般質問 10～11

委員会報告 12

議案審議の概要

9月定例会に提案され審議した議案についての概要（質疑は抜粋）

予算

〔一般会計補正予算（第2号）〕

歳入歳出それぞれに3億180万2千円を追加し、その総額を65億3千989万円とするもの。主な内容は次のとおり。

●総務費

- ・越知面交流センター及び松原ふれあいセンター進入道路拡幅工事及び用地買収費 1千458万3千円
- ・倉庫の購入費及び用地買収費 645万3千円
- ・大越倉庫修繕費 1千10万9千円
- ・ライダーズイン雲の上の屋根修繕費 122万円
- ・台風による配備体制及び避難所配置による職員手当 215万円
- ・防犯カメラ設置費 200万円
- ・その他 278万7千円

●民生費

- ・自然災害により住家が全壊又は大規模半壊に相当する被害にあった世帯に対して被災者の生活の再建を支援する補助金 150万円
- ・その他 3万1千円

●衛生費

- ・台風7号及び7月梅雨前線豪雨により被災を受けた集落が管理する飲料水供給施設の修繕に係る補助金 410万8千円
- ・簡易水道会計への繰出金 208万2千円
- ・その他 176万3千円

○質疑

問

高齢者のごみの運搬について、移動手段に乏しく、ごみステーションまでの運搬が困難な高齢家庭がある。対策を考えてはどうか。

下元秀俊

答

ごみの問題だけでなく移動を含めて、高齢者の暮らし方の問題として検討する。

町長 吉田尚人

●農林水産業費

- ・多面的機能支払交付金 128万9千円
- ・原木の増産及び安定的、効率的な生産を推進し、供給体制の構築を図るために必要な高性能林業機械の導入補助金 4千125万円

●商工費

- ・自然体験型観光を推進し地域資源のさらなる磨き上げを図るための久保谷セラピーロードのプロモーション計画、看板設置及びパンフレット作成委託料 544万9千円
- ・久保谷セラピーロードに渡る歩道橋を整備する工事請負費 3千60万2千円
- ・ふるさと広場の草葺き民家2棟の屋根葺き替え及び水車の修繕費 1千581万1千円
- ・ふるさと広場の舗装工事及び看板設置の工事請負費 789万5千円
- ・その他 404万6千円

○質疑

問

インバウンド観光（海外からの誘客）に対応するために、町内各所に案内標識やパンフレットなど英語、中国語、韓国語など多言語表記をもつとすべきではないか。

下元秀俊

答

多言語表記は補助事業の要件でもある。2020年に向けてサービスの向上になるように見直ししていく。

町長 吉田尚人

9月定例会での決定

●土木費

- ・台風7号及び7月梅雨前線豪雨による崩土除去費用として機械等賃借料 1千500万円
- ・町内の舗装補修費用 1千万円
- ・坪野田井桑線舗装工事 3千600万円
- ・申請件数の追加によるふれあい道路原材料支給及び補助金 1千89万6千円

○質疑

問 二宮近雄

梶原町営住宅管理条例の22条には、「迷惑行為等の禁止」が明記されている。その内容は、町営住宅の入居者は、当該町営住宅の周辺の環境を乱し、または他の者に迷惑行為を及ぼす行為をしてはならない。と書かれているが、大蔵谷の町営住宅に入居している一部の者が22条に抵触しているのではないか。また、他の町営住宅にも同じようなことがあるのではないか。個人の住宅と勘違いしている。私で良かったら行政と共に向き厳しく指導してもよいが町長はどう考えるか。

答

町長 吉田尚人

9月9日に町内一斉に行われた敬老会のお祝いに越知面地区にお伺いする途中、偶然に車の中からその光景が目飛び込んで気になっていったところである。環境モデル都市を標榜している梶原町であるので、許される行為ではないと考えており、しっかりと町内の町営住宅の管理等を含め指導徹底していくので議会の皆様のご協力もお願いしたい。

・がけくずれ住家防災対策事業補助金 3千85万7千円

・その他 34万2千円

●消防費

・台風7号及び7月梅雨前線豪雨により被災を受けた六丁地区の消防道修繕工事としての工事請負費 550万円

・その他 60万1千円

●教育費

・寄宿舎居住費に対するへき地児童生徒援助費補助金について、平成28年度に実施された会計検査において対象外経費の指摘を受け、平成27年度及び平成28年度の2ヶ年の償還額が決定されたことによる償還金 169万7千円

・梶原町の魅力や認知度を向上させ多くの誘客を図るため「志国高知幕末維新博」に沿った企画展を開催する委託料 180万円

・その他 328万1千円

●災害復旧費

・台風7号及び7月梅雨前線豪雨により被災を受けた作業道の災害復旧対策事業補助金 2千300万円

可決（全員賛成）

【松原診療所特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、通院バス利用実績の見込みにより負担金36万円を減額、医薬材料費66万円を追加し、その総額を1千920万円とするもの。

可決（全員賛成）

【後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、平成29年度事業の精算に伴う後期高齢者広域連合負担金及び過年度保険料還付金54万円を追加し、その総額を6千554万円とするもの。

可決（全員賛成）

【介護保険事業特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、平成29年度事業の精算に伴う国、県及び支払基金の超過交付額分の償還金ほかで1千105万3千円を追加し、その総額を5億5千505万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

【簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、西区上組簡水において、台風7号及び7月豪雨により被災を受けた取水堰の修繕費240万3千円を追加し、その総額を1億3千290万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

【風ぐるま事業特別会計補正予算（第1号）】

主な内容は、次期風車建設に向けて風況タワー製作及び設置をしようとするもので、基金積立金1千147万2千円を減額、工事請負費1千242万円を追加し、その総額を8千404万8千円とするもの。

可決（全員賛成）

条例

【**枹原町総合福祉センターの設置及び管理に関する条例の廃止について**】

総合福祉センター解体工事に伴う条例の廃止。

可決（全員賛成）

【**枹原町高齢者合宿施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について**】

初瀬高齢者合宿施設の住宅使用料について準用している「枹原町総合福祉センターの設置及び管理に関する条例」の廃止に伴い、従前どおり住宅使用料を徴収するため、「枹原町保健福祉支援センターの設置及び管理に関する条例」を引用できるように改正しようとするもの。

可決（全員賛成）

その他

【**工事請負契約変更について**】

「平成29年度29年災地すべり災害（H28.6.20～H29.7.24）林道広野九十九曲線1号箇所災害復旧工事」について、工期を延長する必要があるため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めらるもの。

- ・ 契約の金額 7千106万4千円
- ・ 契約の相手方 杉本土建株式会社
- ・ 完成期限 平成30年12月21日

可決（全員賛成）

【**工事請負契約変更について**】

「平成29年度都市防災総合推進事業枹原町防災拠点施設・消防屯所設置・防災備蓄倉庫建設工事」について、工期を延長する必要があるため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めらるもの。

- ・ 契約の金額 1億4千212万8千円
- ・ 契約の相手方 株式会社 四万川総合建設
- ・ 完成期限 平成31年2月28日

可決（全員賛成）

【**工事請負契約について**】

「平成30年度町単総合福祉センター解体工事」について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めらるもの。

- ・ 契約の金額 5千724万円
- ・ 契約の相手方 岩井建設株式会社
- ・ 完成期限 平成31年3月25日

可決（全員賛成）

【**町道の認定について（坪野田井桑線）**】

【**町道の認定について（初瀬東西線）**】
道路法第8条第2項の規定に基づき議会の議決を求めらるもの。

可決（全員賛成）

【**高幡広域市町村圏事務組合の共同処理する事務の変更及び高幡広域市町村圏事務組合規約の変更について**】

【**高幡広域市町村圏事務組合の共同処理する事務の変更及び高幡広域市町村圏事務組合規約の変更に伴う財産処分について**】

高幡広域市町村圏事務組合の共同処理する事務のうち、高幡圏域の青少年育成事業の拠点施設として当初の目的を一定達したことから、大野見青年の家を中土佐町に無償譲渡するもの。また、効率的な滞納整理が実施できるよう保育料等の債権を追加対象とするため、地方自治法第290条の規定に基づき議会の議決を求めらるもの。

可決（全員賛成）

報告事項

【**平成29年度枹原町健全化判断比率について**】
【**平成29年度枹原町資金不足比率について**】

平成29年度各会計決算を認定 総額109億7041万5941円

一般会計

特別会計

病院会計

決算審査

平成29年度各会計歳入歳出決算は、全会計併せて109億7千41万5千941円（重複計上含む）にのぼり、総務教育厚生常任委員会に付託し産業建設常任委員会との連合審査を行った。

審査では、代表監査委員から決算審査意見の報告があり、その後、会計ごとに審査を行い、委員長から「全会一致をもって認定すべき」との報告があり、採決の結果全員一致で認定した。

監査委員審査所見

○基金について

地方自治法第2条第14



審査所見を述べる山口監査委員

項に規定されている「地方公共団体は、その事務を処理するに当っては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」ということについての職員の取り組みによって、各種基金積立額合計は、約113億円となっている。

今後においても国・県の動向に充分気をつけた収入の確保と、基金の計画的な活用を視野に入れてバランスのとれた予算執行をする必要がある。

○病院事業について

平成29年度決算においては、昨年度同様に入院患者数は増加、外来患者数は減少となっているが、収入額は増額（前年度比2.1%増）となっている。

外来患者数の減少は、医療圏域人口の減少、住宅又は施設での看取りを積極的に行ったことなど様々な要因があると考えられるが、現状の経営から見ると、四万川、松原

決議連合審査

の2診療所を含め病院事業経営を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあり、特に過疎地域の病院では、今後の事業経営には想像を超える難しさがあるものと思慮する。

病院事業の健全経営を維持し安定的な利益を確保するために、病院経営の一翼を担う事務局の役割は極めて重要である。すべての職員が経営状況に対する理解を深められるよう病院全体で一丸となって経営改革、経営健全化に取り組まれない。

委員会審査報告(抜粋)

まず、今回の決算審査は、空き家活用促進事業の集中審査を行った。現地調査も実施し、結果としてさまざまな意見がでた中で、今日までの総合評価を行い、慎重に検討し進めることとなった。

平成29年度の一般会計、特別会計及び病院事業会計における歳入歳出決算は、決算書と併せて主要施策の成果を説明する事務報告書を参考にし

て慎重に審査した。

一般会計、各特別会計、病院会計を合わせた歳出総額は、約109億7千41万円と巨額な決算額となっている。主な要因は複合福祉施設、図書館建設工事完成に伴う支出であり、その他各会計においては目的に添い、有効かつ効率的な事業展開をしているということ、さらに、その財源確保へ向けた最善の取り組みができていたことが判断できる決算になっている。今後においても、引き続き国・県の動向を注視し、補助金等をはじめとする歳入の確保に努めていく必要がある。

今回の総務教育厚生常任委員会主催の決算連合審査については、監査委員の意見を参考に慎重に審査を行ったところであるが、町民の生活を大切にすることをまねくりの諸施策の充実を評価し、平成29年度各会計歳入歳出決算については、適正であると認められるため総務教育厚生常任委員会で、全会一致をもって「認

定」すべきものと決定した。

賛成討論(抜粋)

二宮近雄

昨年12月、矢野町政から吉田町政にスムーズにバトンタッチができ、行財政運営ができたことは、非常に良かったと感じている。このことは、矢野町政に引き続き吉田町政の豊富な人脈、行政経験、そして久保副町長、矢野教育長、幹部職員、さらには関係職員の協力があつての事であり深く敬意を表する次第である。

この努力の結果、基金にしても113億円余りとなり、大型ハード整備事業を行っても基金は減っていないのである。これからは難しい時代に突入するわけである。「知」の世界に向けて吉田カラーを前面に打ち出し、久保副町長を先頭に協力、協調して「世界の榊原」を構築してもらいたいことを願う賛成討論とする。

町の貯金と借金の状況

平成29年度末基金(貯金)の状況 (単位:千円)				
会計	区分	基金額		
普通会計	積立基金	財政調整基金	901,075	
		減債基金	1,645,464	
		公共施設整備基金	2,538,643	
		保健文化社会福祉基金	2,646,893	
		森と水の文化のまちづくり基金	1,357,810	
		ゆすはら21夢・未来基金	1,667,253	
		造林事業基金	16,362	
		維新の門顕彰基金	3,267	
		定額運用基金	土地開発基金	149,342
			魚族保護基金	2,500
	水源涵養事業基金		3,473	
	上西の川水源確保事業基金		10,000	
	国保	財政調整基金	101,002	
		高額医療費貸付基金	6,965	
介護	財政調整基金	26,732		
病院	減債積立金	205,000		
風ぐるま	環境基金	41,725		
合計		11,373,451		

平成29年度末公債費(借金)の状況 (単位:千円)			
会計	区分	公債費額	
普通会計	一般公共事業債	0	
	一般単独事業債	80,211	
	教育福祉施設等整備事業債	39,100	
	辺地対策事業債	810,956	
	災害復旧事業債	123,826	
	過疎対策事業債	4,843,338	
	財源対策債	10,616	
	臨時財政特例債	0	
	減税補てん債	10,760	
	臨時税収補てん債	0	
	臨時財政対策債	127,466	
	その他	0	
	簡水会計	簡易水道事業債	646,880
		辺地対策事業債	377,684
過疎対策事業債		24,611	
農集会計	下水道事業債	172,108	
	特例措置分	0	
下水会計	過疎対策事業債	8,709	
	下水道事業債	389,638	
	特例措置分	0	
病院会計	過疎対策事業債	30,652	
	病院事業債	318,154	
病院会計	過疎対策事業債	41,388	
	合計	8,056,097	

町民一人当たりの負担金額及び目的別決算額

	税金負担金額
町民一人当たり	82,998円

町民一人当たりの一般会計歳出決算額 2,229,549円 (人口3,608人 平成27年国勢調査)

<p>総務費 772,979円</p>	<p>民生費 241,393円</p>	<p>衛生費 138,689円</p>	<p>農林水産業費 240,231円</p>	<p>商工費 23,644円</p>
<p>土木費 283,540円</p>	<p>消防費 44,448円</p>	<p>教育費 116,597円</p>	<p>災害復旧費 23,047円</p>	<p>議会費 13,466円 公債費 195,511円 諸支出金 136,004円</p>

平成29年度 決算連合審査(抜粋)

意見質疑を今後にかかして

一般会計(歳入)

◎総合庁舎について

問 二宮近雄

役場庁舎は外部的には評価は高いが、機能的には全く使い勝手が悪く不便極まりない役場であるように感じている。使い勝手の良い内部の改修工事を行い、吉田町長の公約の目玉の一つである産業の振興を担う上で重要な産業振興課を庁舎内に入れるべきではないか。そして、現在のトイレ位置についても問題があると私は感じている。役場の裏口付近に職員専用のトイレを設置すべきではないかと考えるが町長はどのように考えるか。

答

町長 吉田尚人

二宮議員が当時の矢野町長と議論していたこともあったと伺っており私も私の重要な施策である産業振興でありますので前に進めるべく検討してまいります。また、職員専用のトイレの設置の件であります。職員の事を考えていただき有難く受け止めております。産業振興課の件と合わせ前向きに検討いたします。

◎ふるさと納税について

問

下元秀俊

ふるさと納税29年度は72万円、件数は179件。今、議論がされているが、自主財源の確保という観点から今後どのように取り組むのか。

答

町長 吉田尚人

産業振興という側面、また、専任担当ということも含めて来年以降見直しをし、積極的な推進を図る。

◎町税の未収分について

問

市川岩龜

監査委員より滞納分が少し増加していると指摘がある中で、未収金として欠損処理しなければならぬ額と今後の徴収について問う。

答

総務課長 二宮健志

町民税の個人の滞納繰越分で、いろんな手をつくしても徴収できない分が不能欠損額として8万9千793円計上されている。現年分については、99.218%と非常に高い徴収率であるが今後も徴収事務を粘り強く行っていく。

一般会計(歳出)

◎畜産公社について

問

下元秀俊

畜産公社が新たに立ち上がり新たなステージに入っている。これから農業振興をどのように進めていくのか。

答

町長 吉田尚人

町の農政としてJ.Aに任せるだけでなく、さまざまな農業者とも話も聞き、議論しながら進めていく。

◎ドローンの活用について

問

下元秀俊

災害時の対応、危機管理の側面から、ドローンの活用は今後ますます重要になってくる。常備消防を含めて、どのように活用するのか。

答

総務課長 二宮健志

本町では昨年ドローンを購入し、災害現場等で活用している。高幡消防組合での検討を含めて津野町とも協議して対応していく。

◎各イベントについて

問

下元秀俊

高原祭り、まるかじり大会、グルメ祭りイベントが目白押しである。それぞれ開催時期、日程を再検討すべきではないか。イベントを行っていない5〜6月への変更も検討すべきだ。

集中審議(空き家関係)

問

二宮近雄

現在入居はしているが、10年後、12年後に棟原に定住しない人がいたならば、現在、多額の費用を投入し、改修している資産は個人の私有財産になるとの事であるが、耐用年数と減価償却の関係と合わせ補助金適正化法、地方交付税法に抵触しないか。また、3年前から家主が受け入れを拒否した時の対応は万全か。

答

町長 吉田尚人

空き家改修事業に関する法律に抵触しないかの件については、国土交通省住宅局が省令で定めている法律があり、この法律に照らし合わせ問題ないものと考えている。

答

企画財政課長 西村新一

ご指摘の件を現在の要綱、契約書で見ると若干不備な点があるように考えている。内容を十分に精査し、議論を重ねて合意形成に努めていきたい。

問

下元秀俊

町内在住者の公営住宅への入居条件として25万9千円という所得制限がある。一方、移住定住施策では所得制限はない。移住定住施策はさらに推進すべきだが、格差の是正が必要ではないか。

答

町長 吉田尚人

公営住宅には所得制限があるが、移住定住施策との整合性も含めて解決するために総合的に検討する。



お試し住宅で説明を受ける



決算連合審査状況



移住者への聞取り



移住者への聞取り



「主要地方道県道中平 栲原線について」

問

5月17日に移動土木事務所が開催され、その時に町長は、町内の道路整備について須崎土木事務所に対し、整備促進について要望したところであるが、その後、現地調査で川井トンネル坑口の落石危険箇所の調査もいただいた。また、仲久保部落内の町有地の現地調査も行った。

町長 今年の施政方針の中でも述べているが、大規模農地化をすることを検討する、或いは、どういった利用方法があるか。例えば、先だつての日本食研ホールディングス大沢会長が講演にいられた時に語っておられたことであるが、例えば工場を作ったらいよいよという話もあった。そういった産業に結びつく用地として仲久保残土場の土地を利用したい、そういう思いもあり、主要地方道県道中平栲原線は早急な改良が必要であると要望した。

問

現在、国道439号鷹取から町道改良工事として佐渡までトンネル工事が進んでおり、西暦2020年3月に完成の運び

答

町長 主要地方道中平栲原線については、町道佐渡鷹取線の改良工事と並行してトンネルの初瀬側坑口から上

となつていることは皆さん承知のとおりである。この鷹取トンネルが着工した時点で、次は仲久保工区だと地元住民は皆思っている。そのような運動も展開しないといけないという熱意であり、仮称仲久保工区の設定に向けて取り組むべきであり、仲久保の町有地活用も考えるならばなおさら早く改良に向けて運動を展開すべきである。また、初瀬トンネルから初瀬本村まで改良整備をする図面を見た記憶があるが、それはまだ残っているのか。

答

質問にもあつた初瀬境トンネル坑口から初瀬本村間につきましては、改良が必要な区間であるとの認識は持っている。今年5月の移動土木事務所でも議員の皆様も同行いただき、須崎土木事務所員の皆様にも現地足を運んでもらい、早期工区

流30メートルの区間を現在工区設定し、改良工事を進めていただいている。これは、町道佐渡鷹取線の改良工事に合わせて、手前の県道中平栲原線、そして国道439号の中平までの間の改良と一体として進めていただきたい。町中心部と松原区を概ね20分で結ぶアクセス道路と位置付けて高知県技術支援をいただきながら全力を挙げて取り組んでいる。

取り組め！ 仲久保工区設定に向けて モデル農家の育成

問

中越計清

設定を要望させていただいたところである。また、ルート図面の件

であるが須崎土木事務所に保管している。



早期の改良が待たれる



「林道梶原東津野線の進捗状況と、今後の見通し及び取り組みについて」

問 この路線は当時、国道439号下折渡の竹屋敷分岐まで大規模林道で整備をしていくという計画であったと思うが、現在は緑資源開発公団が廃止となり、高知県が山の道の名称で整備していると聞いている。

初瀬地域は、広大な森林面積を抱えており、そして鷹取山国有林は学術保護林として、将来に向けて大きく活かされるものであると考える。そういうことから、整備に向けて積極的に取り組むべきと思うが、進捗

状況と、今後の見通し及び取り組みについて問う。

答 町長 梶原東津野線については、平成20年度より県営事業として緑資源開発公団から引き継ぎ、現在は山の道地域づくり交付金事業で、全幅員7メートルの自動車道として事業を実施している。

梶原東津野線の事業期間は、平成20年度から平成32年度までとなっております、総延長2千メートル、総事業費12億3千600万円である。平成29年度までの実施済み延長は、525メートル、進捗率は3%となっている。平成30年度においては、作業道水羅目線下流付近から事業費7千200万

円の計画で実施可能な箇所から整備しているところである。また、この工区が2〜3年かかる見込みであるが、現工区の早期完成を目指しながら難航している用地買収についても粘り強く交渉していきたくと考えている。

「農林合わせた複合経営の推進とモデル農家の育成について」

問 私は、農業ほど素晴らしい職業はない、そしてこの山間地域で農という職業は本当に大切な業種だと思っている。農業が盛んな地域は住民に活力があり元気があ

る。そして農業をする人は地域の景観保持のため

にも重要な役割を果たしている。そういった中で本町においても農業者の高齢化とともに農業が衰退していることは現実であると感じている。一方で、こうした厳しい地域農業情勢ではあるが、夏はハウスで園芸作物、冬はシイタケ原木栽培、それに畜産と組み合わせた複合経営で着実に成果が表れている農家もいる。

こうした複合経営の推進を図るべく町としても仕組みづくりが必要と考えるが町長の考えを問う。

答 町長 梶原町の農業は、重要な産業であると同時に、国土保全、また景観、環境保

全の面も含めしつかりとした振興を図るべきと考えている。

農業においては、少ない耕地面積の中で取り組むため、施設園芸や露地栽培により収入の高い作物を生産するため、須崎農業振興センターや津野山農業協同組合とも連携しながら取り組んでいるところである。

一方、林業においては戦後植林した人工林が伐採時期を迎えており、林業従事者の手を必要としている。その担い手対策として森づくり担い手育成塾を開き、担い手の育成に取り組んでいる。

現在、町内では、退職後Uターンされ農業、林業、畜産業の複合経営で若者も生計を立て、子供

を育てられる仕組みづくりに取り組んでいただいている方や、現役時代の知識を活かし多数の皆さんを雇用し梶原での農業の新たな取り組みをされている方など、様々な農業に取り組んでおられる方がいる。

梶原町では、夏山冬里方式による畜産や、農業と冬場の林業の組み合わせによる複合経営や、林業や農業にも取り組む兼業農家や、兼業林家など様々な形での複合経営がこれまで行われてきた。国・県の補助事業も活用しながら、町としても支援策を準備している中で、多様な経営の在り方を検討し、取り組んでいきたいと考えている。

基盤整備は最重要課題 全力で推進する

答

町長
吉田尚人

あともがき

もう許していただきたい。腹の底から絞り出すような声を上げた人がいた。

宇宙の怒りが収まらない。日本列島を走り抜ける災害は、すぐ身近に迫り、愛媛県南予地区を襲った。

その甚大な被害を目の当たりにし、言葉をも失った。何かをしなくては、と気持ちだけ掻き立てられる。しかしながら自然の猛威をしつかり受け止め、ボランティアの方々の助けも借り、黙々と生きるために闘っている人々に接し、勇気をもらったのも事実である。改めて、われわれのできることを粛々と重ねていくことの重要さに気付かされる。

前町長矢野富夫氏、二期八年間かけて地域資源を生かし、道路網整備等、安心安全なまちづくりを公約とし、①各地水道事業、②各家庭、庭先まで町道整備、③がけくずれ住家対策、④高齢者対策、福祉関係等に取り組み、新しい流れを作った。

そのバトンを受け取り、第二章の幕開けをした吉田尚人町長、今までの梶原町を支え、身を粉にして築き上げてこられた高齢者の方々をしつかり守り、子々孫々に幸せつなく理想郷梶原を目標に、情報を、資源を効果的に活用し、町内外を問わず人の輪を広げて、シンクタンク、専門家の知恵も借り、新しい風を吹き込むことで、未来に向けて自信あふれる梶原人を育て、次世代リーダーの育成に熱き思いで取り組んでいる。

われわれ議員も、また希望を持ち、進化し続ける梶原町を誇りに思い、町長とともにけん引していく。町民一人一人の笑顔、イキイキ弾む会話、躍動しているまちづくりを楽しみ、任期満了の折、現議員全員手を取り合い、達成感と次への意欲をかき立てる日々努力をしたものである。

西川慶男 記



- 構成委員
- 副委員長 中岡俊輔
 - 委員 土釜 清
 - 委員 市川岩亀
 - 委員 中越計清

平成30年6月27日第339回6月定例会において、閉会中の調査付託を受けた産業振興について当委員会においては、8月23日での調査を予定していたが、台風等の影響により調査を断念したので報告する。

産業建設常任委員会報告
委員長 下元秀俊



二宮近雄議員(左)



中岡俊輔議員(左)

5期20年の長きに渡り、梶原町議会議員として活躍されたことに對し、本会議前に吉田町長より2氏に感謝状が贈られた。

中岡俊輔氏、二宮近雄氏に感謝状が贈られる

閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、12月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会
 - ・議会12月定例会の運営について
- 産業建設常任委員会
 - ・産業振興について
- 議会広報編集委員会
 - ・議会広報の発行について

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。

- 神奈川 横須賀市 梶原 和矩 様
- 兵庫 県明石市 二村 實建 様
- 愛媛 県鬼北町 松本 君恵 様